

BLOG

まほろば
ブログ
より..

MAHOROBA-DAYORI

アイスマン、 再び！

(まほろば編集部 島田)

アイスマンがまほろばに再登場！
今度は社長大橋の提案でエリクサー水を使用。サイズも前回はさらに大きく上回り4m近くものビックサイズ！二晩かけて泊まり込みで素晴らしい作品を形にしてくれました。

完成した作品を通りから見ると、まるでまほろばの上に産み落とされた「ゴジラの卵？」といった感じで、ここから何か生まれそうな予感がしてワクワクしました！

中に入ると、全体が半透明な白い光で包まれ、まるでカテドラル（聖堂）のような、静謐な空気が漂います。エリクサー水で作ったせいもあるのでしょう



か？ 暖気を抜くための天井穴から青空と白い雲が見えて、ここは別世界。
音響もよく、まほろばビューティーで訪れた伊勢さんに、飛び入り演奏をお願いしました。



前回は今シーズン21番目。今回で目標の30回を達成。今年にはコロナ禍もあり、すべてボランティアで全道各地の個人宅に設置されたそうです。

「水というありふれた自然のアイテムを通じて、感動や喜びと共に、自然への思いを寄せて頂ければ…」と、そんな思いのアイスマンこと竹中さん（写真右）のメッセージが込められています。



来週は3月。週明けから暖気が予想されていますので、おそらくここ数日のわずかな命。

でも、たまごが割れた後に出てくるであろう「見えない何か」を、秘かに楽しみにしています。

.....
以下、前回2月の時と今回の感想を写真家の中島博美さんにいただきました。ぜひご覧ください。



聖なる空間？

私がとてもお世話になっている札幌西区にある自然食のお店「まほろば」の屋上に
氷のドームが出来上がりました。
私もその制作にとびいり参加しました。
というのも、THE ICEMANS という活動をしているニセコ時代の友達のかなちゃんと、まほろばで再会したことがきっかけで、とんとん拍子にこの経緯になったからです。

THE ICEMANS というのは、造形作家の竹中博彦さん（ヒロさん）を中心として、冬の間、孢子を飛ばすように氷のキノコを各地に出現させる集団です。

この氷のドーム、とても美しいフォルムをしています。

気温が下がる日暮れから作業開始。
まずは、オレンジ色の丸いテントを設置し、そのテントの下の部分を雪のかたまりで覆い、土台を作ります。
そして、テントの上に夜中じゅう細かい水をかけ続けていきます。
この水をかける塩梅が間違いなくみそ。
風向きを読み、どの方向から、どれだけの量の水をかけるのか。
そのときの気温、雪のふり具合など、自然の恩恵という味付けが加わり、翌朝には、その場所で唯一無二の氷のドームが出来上がります。

数センチの厚みに成長したがドーム状の氷に、
THE ICEMANS のヒロさんがチェーンソーで切れ目をいれ、入り口を作り、さまざまな形の窓をあけ、この氷のドームに、新たな命をさらに吹き込んでいきます。

出来上がったばかりの入り口から、ドキドキしながら入っていくと、中は意外と広く、私がまっすぐ立っ



ても天井はまだもうすこし上にありました。

氷のドームの中は、背筋がシャンとする位、キュッとしまった空気が流れていました。
ひんやりしているけれど、この中にいるのはとても気持ちがいい。

しばらくぼーっとしていたのですが、ふと氷の窓から、薄い水色の空が見えた瞬間、突然、涙がぶわっとあふれだしてきました。

さっぱり、何がなんだか分からないのですが、なにかが内側からこみあげてきて、涙が止まらなくなったのです。
というか、大号泣。

横に、ICEMANS のかもんちゃんがいたので、彼女の肩を借りて、オイオイと。

この涙はいったいなんだったのか未だにまったくわかりません。

ニセコにいった初めての冬に太が二日ばかりで作ってくれた雪洞で、寝袋にくるまって一晩寝たことを思い出したことや、わんこのミミーと太とのニセコでの暮らし、それから、太が旅立ってから一人になってからの言葉にできないほどの寂しさ。

あとから思えば、こういうものだったのかな？とも思うのですが、ほんとのところはわかりません。

でも、いろんなものがごちゃまぜになって、あふれ出してきたことはたしかです。

そんなことが、この氷のドームの中で起こりました。

この氷のドームって、「聖なる空間」??



「あの世とこの世をつなぐエリクサーの氷のドーム」

寒気と共に、札幌の自然食のお店「まほろば」に再び ICEMANS が登場しました。

今回は2月も最終週。日中もプラスの気温になる日がぽつぽつ出てきた中で、待ちに待った寒気にあわせての制作でした。私もまたその制作に参加しました。

そして、今回のミッションは、エリクサー水で作る氷のドームです。

前は水道水で作ったのですが、今回は、まほろばならではのエリクサー水で作ったら、「いったいどんな氷のドームが出来上がるのか試してみよう」という発想です。

エリクサー水というのは、まほろばの宮下周平会長が開発したエリクサーという名前の浄水器でつくった水です。開発までの長い道のり、この水への想い、哲学など、語ることは山ほどあるのです

が、私にはとてもそれはできないので、まほろばのサイトを読んでいただければと思います。

ただ、初めてこの水を飲んだときに、水が身体の中にすうっと溶け込むようになっていったことだけは鮮明に覚えています。

そうそう、宮下会長はこんなお話しをされていたらっしゃいました。

「仏教に心と物は同じ方であるという教えがあるんですけど、まさにわたしがこれを作るときに単なる物質という捉え方ではなくて心があると信じてやってきました。

石ひとつにも心があるし、植物ひとつにも心があります。ですから、エリクサーもひとつの生き物であると捉えてきました。エリクサー（霊水・霊薬）の水一滴の中に自然や宇宙からのメッセージがあり、それを飲む皆様の体内に注がれ」何かが開かれたら素晴らしいと、そう思います。」



今回のエリクサーの氷のドームは、前回の形よりもう少し大きいテントを使い、形もてっぺんが卵型をしているので、前回とまた違った趣きのものになりました。そして、今回は暖気のことも考えて、少し氷の厚みを厚くしておこうと前回よりも放水時間を長くし、二晩かけての制作でした。

出来上がった日の朝、すがすがしい青空をバックに、白く輝くエリクサーの氷のドームは、生まれたての卵のようで、とても神々しく見えました。

私は一人でドームの中に入り、マットをひいて横になり、その上に寝袋をかけて、寝てみました。すると、なんと気持ちがいいことでしょう！呼吸が深くなって、身体が一気にゆるんだのです。「これは、天然のメドベッド（メディカルベッド）だ」

と、思いました。

前は寝てみなかったのですが、比較はできないのですが、二本足で立つよりも、背中をくっつけることで、面の面積が格段に増えるので、気持ちよさの体感がパワーアップしたのでしょうか？それと、水道水からエリクサー水へという大きな条件の変化。

ただ、前回のような号泣にはならず、「この中でずっと寝ていたい」という心地よさにただただ包まれました。

その日は、たまたま月に1度のまほろばビューティーという美容室の日でした。美容師であり、写真家である伊勢さんが、ギターを持って、ドームの中で即興ライブが



始まりました。伊勢さんが歌うノラ・ジョーンズ「Don't Know Why」は、ドームの中で、とてもいい響きがしていました。

そして、何曲かの後、ボブ・マーリーの「No Woman, No Cry」が流れてきました。

その瞬間、私の目からは、またもや涙がぶわっと溢れ出しました。

ボブ・マーリーは、太が大好きだったからです。しかも、「No Woman, No Cry」。

「君よ、泣かないでくれ」、です。

「ああ、太からのサインだ」って、すぐに思いました。

その日の夕方、宮下会長がお店にいらっしゃり、日も暮れて、ブルーにライトアップしたエリクサーの氷のドームの中で、伊勢さんとまほろばの武藤さんが、ギターとギターでの即興ライブをしてくださいました。二人で歌うノラ・ジョーンズ「Don't Know



Why」は、昼間聞いたものからさらにパワーアップ。とても忘れられないとびっきり素敵な時間になりました。

帰宅すると、埼玉に住む母から、「ミミーちゃん今日で49日を迎え昇天しました」、とラインが入りました。ミミーというのは、太とニセコと一緒に暮らしたミニチュア・ピンシャーという犬種の3キロほどの黒い小さなわんこです。

2011年の震災直後の4月に太が旅立ったあと、

ミミーを私の実家に預けました。ミミーは石川ミミーから中島ミミーになり、先日1月8日に16才の天寿をまっとうしたばかりでした。

太が旅立ち、ミミーが旅立ち、私が築いたか家族はどうとうなくなってしまった、という悲しみの中に、実は、ここしばらくたたずんでいました。

でも、ふと思いました。

「ミミーはあのエリクサーの氷のドームの天井の穴から、天に飛び立ったのかもしれない」、と。そして、翌日の2月27日は私の誕生日だったのですが、その日の朝には、こんな夢まで見ました。

友達の子供が行方不明になり、町中みんなでさんざん搜索したところ、夕方になって、その子供は押入れの布団のなかから出てきて、一件落ち着いた

という夢でした。

いろんな夢解釈はあるのですが、私は、夢でメッセージをさらにもらったように感じました。「肉体からは離れて、見えなくなってしまったけれど、ちゃんと僕たちは存在しているよ。魂は永遠だよ。いつも一緒にいるからね」、ということではないか、と思ったのです。

この一連の出来事、たまたまなのでしょうが、私にとって色々な偶然がかさなった今回のエリクサーの氷のドーム。

こういう節目の時にあたったというのも、天の計らいを感じました。

そして、あの世とこの世をつなぐエリクサーの氷のドームなんだと思いました。



©Hiromi Nakajima